

事業計畫書

事業名	ド根性 さくっこ事業 ~ 笑顔 SaKu 体験から学びへ ~		
重点テーマ への該当	有 テーマを記載		
	無		
実施箇所	佐久市岩村田2542-1 休耕水田 300坪		
実施期間	事業開始予定年月日	令和3年	4月 1日
	事業終了予定年月日	令和4年	3月 28日
事業概要	<事業の目的> 事業背景 台風19号の被害は佐久地域全域に甚大な被害を受けました。現時点において復旧復興が進んでいますが、まだ田畠の小さな被害を受けた所までは手が回っていないのが現状であります。また、昨年に引き続きコロナウイルスの影響により地域参加者への募集にも大きく影響があるものであると考えます。 だからこそ、ここで自粛ではなく感染症対策を講じ一歩でも前へ進んで行きたいと考えました。 年々休耕中の田畠は多く、地域の資源を持続し次世代に伝える必要があり、佐久地域では古くから水田を利用し小鮎の養殖を行っており、最盛期は、農薬米の販売、そしてフナ生産と一石三鳥の利点から急速に普及し、多い時には60t、約1億円の産業にまで発展しました。 年々生産者は高齢化も進み、佐久と駒ヶ根地区合わせて250戸ほどの農家で、約30tの生産量に落ち込んでおり台風19号被害によりまた生産者が減少が考えられます。 昨年に引き続き、現時点では、コロナウイルスによる学校生活は過去に経験したことのない時間を過ごしています。この局面に子供たちはどう過ごすのでしょうか。 幼少の頃から自然体験、地域活動、家族行事に参加し、多感な青少年期に多くの体験をした子供は、規範意識、人間関係能力、文化的作法、教養等の人間としての生きる力を多く兼ね揃えた人材へと成長する可能性が広がることでしょう。子供は一人で成長するわけではなく、家庭や地域、学校などの生活の場で様々なことを経験しながら成長していくものです。子どもたちが変化しやすい厳しい時代を生きていくためには様々な経験し自ら考え行動していく人へと大きく成長を期待します。		
	事業目的 佐久地域の子ども達へ、地域の魅力を体験及び作業を通じ、年齢問を越えたコミュニティーの創出・ 休耕田畠を再生、命の大切さを伝える。 佐久の食文化を次世代へ伝える。		
	<事業の内容> 近隣の小学生・保育園児・参加者には、休耕水田を再生するところから、関わり水田の仕組み、小鮎を産卵→ふ化→幼魚→成魚までの過程を実際五感で感じ、今学校等で学べ無い唯一無二の体験を行う。 地元の友達とは違う仲間を作る事で、違った価値観や経験を学び、参加児童の視野を広げて参ります。 募集については、市民新聞等で周知するほか、趣旨、目的共に賛同いただける方に構成メンバーSNS等活用し佐久平・岩村田地域を中心に募集します。		
	<広報表示の方法（佐久市まちづくり活動支援金事業である旨の表示）> ・佐久市民新聞・佐久ケーブルテレビ等・FM佐久平等告知を行う ・参加者の手作りのチラシの作成・商店街、子供たちの手作りチラシへの掲載にて告知を行う。		
<重点テーマに該当する場合 該当する理由（アピール）> 無し			

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・養殖に必要な環境づくり (除草作業・土づくり) ・トラクター田起こし 2回 ・ショベルカー水田整備 1回 ・参加者募集の計画実施 ・休耕田畠の再生 (除草作業・土づくり・畔シート) ・周辺水路清掃 ・養殖に必要な環境づくり ・地域支援者、保育園・幼稚園・地域小学校児童共に作業実施
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・土づくり、畔整備、産卵場所、防護ネット準備 ・親ブナの産卵準備
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・水質・温度・生育管理・餌やり・専門家指導 (水産試験場) ・生産者指導・除草作業・防護ネット準備・支援者、小学生児童共に作業実施
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・水質・温度・生育管理・餌やり ・トラクター田起こし 1回 ・除草作業・防護ネット準備
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・水質・温度・生育管理・餌やり ・除草作業・防護ネット作業 ・出荷に向けた研修準備
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・水質・温度・生育管理・餌やり ・除草作業 ・出荷作業 ・学校他 調理実習 (ご協力頂いた地域の皆様) ・商店街にて販売体験 ・事業検証・報告書作成
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度へ向けた水田整備・事業実施検証 ・トラクター田起こし 1回 ・ショベルカー水田整備 1回 ・事業検証・報告書作成
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施検証 ・報告書作成 ・トラクター田起こし 1回 ・ショベルカー水田整備 1回
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業検証 ・次年度事業実施計画
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業検証 ・次年度事業実施計画
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業検証 ・次年度事業実施計画
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業検証 ・次年度事業実施計画

	<p><「公益性」の視点</p> <p>昨年は地域参加者募集時には既にコロナウイルスの感染が影響あり、地域参加者募集時の状況が環境に合わず参加頂く事が出来ませんでした。本年は少しでも多くの方へ告知して参りたいと考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校との連携により、コミュニティースクールの一助とし、経験豊富な水産試験場・生産者の皆様が今の世代へ伝える機会を創る。 ・近年田畠に大人、子供たちは関わる時間や機会も減ってきている中、水田に目を向け伝統である佐久特産の「小鮒」を地域住民に知って頂き、一年間自然体験、田畠作業、調理（加工）を通して共に食の提供を佐久っ子に地域魅力を伝える事ができる。
	<p><「発想の豊かさ」や「創意工夫」の視点></p> <p>屋外の作業の為 しっかりと感染症対策を行うことが出来ると考えます。地域高校生・小学生に休耕水田を再生する過程から携わることにより他では出来ない体験をして頂けるよう4月以降お声掛けを致します。生育の状況を観察、飼育出荷することで命の大切さを感じ取ることができます。販売に携わることで、お金の大切さ、苦手なコミュニケーションにも積極的に取り組める。（どろんこリクリエーション等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食等の食品ロスの観点より、残飯（パン類）にご協力いただきエサ代の削減や事情への関心を高める。
	<p><「波及効果」や「発展性」の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐久特産の小鮒の生産者が減少、害鳥類による出荷量の減少を地域住民の皆様に知って頂くと共に食文化を今の世代に知って頂く事ができる。 ・佐久市伝統の小鮒を育てていくうえで土づくり、産卵、孵化、飼育、出荷、加工の一連の流れを体験し命の大切さを始め五感で食文化を自ら学べる。 ・若者が事業に取り組むことで、休耕農地の再利用の普及 ・需要家へのニーズ対応が可能である。 ・地域企業が活動を利用し、事業のみならず幅広い分野で付加価値を生み出せる。
特記事項	<p>活動を継続するためにどう取り組むか</p> <p><「自立性」の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の学校関係者と学校教育にはない居場所の提供を行う ・地元商店街や地域の皆様と出荷まで関わって行くことで持続していく。 ・生産性を安定させるために飼育記録や指導を受け安定的に事業を行えるよう取り組む。
翌年度以降の活動内容概要	<p>翌年度以降の活動</p> <p>年間を通して、休耕水田を利用し子供たちが自由に遊べる居場所づくり、お米作り体験、小鮒の養殖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居場所づくりには地域のつながりや人間関係が希薄化しているといわれる自然の真ん中で、水田の作業を通じ、人がつながる空間を作ろうと考えます。誰もがふらりと立ち寄れるような自由な場も。運営する人たちからは「地域のためであると同時に私の居場所にもなる」という声も聞こえてきます。
事業の最終目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を体験及び作業を通じ、年齢間を超えたコミュニティーの創出・休耕田畠を再生、命の大切さを伝え、佐久の食文化を次世代へ伝える。 ・生産から販売までの過程で子供たちの笑顔を創る。 ・地域コミュニティを復活させ佐久から地域を盛り上げていきます。 ・このような街作りをする為に心身ともに健康な街づくりを目指します！